

オーケストラ シンフォニカ 東京

第 33 回

定期演奏会

平成 4 年 4 月 20 日 (月) 午後 7 : 00 開演

サントリー小ホール



プログラム

第 1 部

指揮：家 城 孝 治

幻想曲 朝 鮮 の 印 象 op.20

武 井 守 成

冬 の 郷 愁

堀 清 隆

アイヌわらべ歌による綺想曲

中 野 二 郎

^{ソウ}
箏 独 奏

仲 田 喜 代 子

第 2 部

指揮：石 黒 不 二 夫

二つのマンドリンの為の協奏曲 ト長調

A. ヴィヴァルディ
〔編曲：S. ペーレント〕

第1マンドリン 本 間 輝 樹

第2マンドリン 肥 沼 成 明

ギター協奏曲 ニ長調

A. ヴィヴァルディ
〔編曲：S. ペーレント〕

ギター独奏 山 本 雅 三

〔休 憩〕

第 3 部

指揮：石 黒 不 二 夫

序曲第 2 番 嬰へ短調 op.2

K. ヴェルキ
〔編曲：赤城 淳〕

天 使 の 夢 (カメンヌイ オストロフ op.10より)

A. G. ルビンシテイン
〔編曲：武井守成〕

グランド ファンタジー ムーアのグラナダ

M. M. ガルシア

- 1 前 奏 曲
- 2 ボアブディル王のグラナダへの訣別
- 3 アラビア風小夜曲
- 4 舞 曲 と 終 曲

曲 目 解 説

第 1 部

幻想曲：朝鮮の印象

武井守成(1890～1949)

この曲は大正15年(1926年)2月、作者が公務により彼の地を旅行した時の印象を、3月に作曲し偶々来日していたR.カラージュに贈られた。初期作品の傑作の一つで「京城の夜宴・平壤牡丹台の寒月・当時鮮内に見られた軍国的情調・妓生の舞踊」などの印象を総合的にまとめたもので、メロディー・リズムは朝鮮風であるが凡て作者の主観であり、本来の朝鮮音楽には直接関係していないと言われる。

最初から11小節の独奏にはクラリネット(ピッコロ・マンドリン)が指定され、又打楽器として東洋風のドラや小型の木魚(大小2個)が効果的に使われているが、此等は作者が朝鮮から持ち帰ったもので、OSTに伝わっている。

冬の郷愁

堀 清 隆(1900～1986)

記録によると昭和9年(1934)、3人の作曲家によるオムニバス形式の組曲「冬より夏」が完成し、同年5月のOST(タケイ)第35回定演で発表されている。その第1曲がこの曲であり、第2曲は服部正作曲「春に居て夏を想う」第3曲は武井守成作曲「夏 深し」であるが、3曲共OST及武井文庫には楽譜が保存されていない。先年 堀氏 のご遺族から戴いた自筆の原譜(コピー)により、今回この曲を演奏する運びとなった。

この頃の彼の作品は円熟味を増し、編成にマンドラコントラルト・フルート・ピアノ・打楽器などを加えた近代フランス的手法のオーケストレーションが、この作品を華麗なもの(演奏する立場からは甚だ難曲)にしている。作者の生れた京都の底冷えのする冬を思わせる暗い曲想の中に、彼本来のロマンティズムを加え、春の到来を待ち望むかの様に思われる。

アイヌわらべ歌による綺想曲

中 野 二 郎(1902～)

この曲を演奏するに当り、中野二郎先生 に解説をお願いします。

昭和37年(1962)恰度私が還暦を迎えた年、兄と私ども夫婦4人は北海道旅行をしました。その時アイヌ部落に向うバスの中で、声自慢らしい女車掌から聴かされた歌の中で、アイヌわらべ歌と称するものが、単純ながら素直なので、書きとめておいたものを素材にしました。その年の9月21日にまとめたものです。箏を主役にしたのは、あの弦を弾く独得な音とマンドリン オーケストラを組み合わせてみたかったからです。歌の意味は…… 今日はいい日だ よい日だ この中に幸福な人がいる その人を探しましょう…… と言うのだそうであるが、器楽として処理しただけで関連はありません。

注：箏とは13弦琴のことです。この曲の主題のメロディーは合唱曲(ピリカ)として歌われておりますので、ご存知の方も多と思います。

第 2 部

二つのマンドリンの為の協奏曲 ト長調

A. ヴィヴァルディ(1678～1741)

ギター協奏曲 二長調

[編曲：S. ベーレント]

アントニオ・ヴィヴァルディの父は、ヴェネツィアのサン・マルコ大聖堂のオーケストラのヴァイオリン奏者で、旅行案内にヴァイオリンの名手と書かれる程の演奏家であった。アントニオが父にヴァイオリンの手解きを受けたであろう事は想像に難くない。彼は15才の時聖職への道に入り、1703年25才で司祭に任ぜられピエタ慈善院に配属された。ここで合奏の指導とその作曲を義務づけられ、本格的な作曲活動に入ると同時に、一流のヴァイオリニストとして宮廷や法王やオーストリア皇帝などから招かれ演奏家としても活躍した。以後の彼はピエタの司祭としての奉職と、作曲家・演奏家としての活動の二つを生涯くり返すことになる。

彼の作品は少くとも300曲以上はあると思われるが、「協奏曲の父」と呼ばれておる様に、ヴァイオリン・チェロ・フルート・オーボエ・ファゴットなどを独奏楽器とした協奏曲を数多く書いており、その中にマンドリンの為の協奏曲・リュートの為の協奏曲が各々2曲づつ含まれて居ります。

二つのマンドリンの為の協奏曲……この時代のマンドリンは現在のナポリ型複4弦鋼線ではなく、おそらくロンバルト風の（小型リュートの様な）単6弦ガット線のものであり、奏法もトレモロがなく所謂ツップ〔Zupf〕奏法で、音量も貧弱であったと思われる。原曲の編成は2つのマンドリン・ヴァイオリンとオルガンとなっているが、演奏はベーレントがツップオーケストラとの協奏曲に編曲してドイツで出版したものを我们用す。

ギター協奏曲……古典リュートの為の協奏曲を、ベーレントがギターとツップオーケストラの協奏曲に編曲したものでより演奏します。オーケストラは第1・第3楽章アレグロはツップ奏法、第2楽章ラルゴはトレモロ。

18世紀の古典音楽の雰囲気を出す為、2曲共オーケストラは15人の小編成としました。

第3部

K. ヴェルキ (1904～1983)

序曲第2番 嬰へ短調

〔編曲：赤城 淳〕

作者は17才でマンドリンオーケストラを創設しており、78才で歿するまで生涯をドイツ・プレクトラム界の為、研究・指導・実践に力を尽した功績は大きい。

一方1924年20才で第1作「序曲第1番」を作曲し、以後60年に亘る創作活動に100曲を超える作品を発表した。その内の10数曲は異色のオリジナル作品で、木管・金管・打楽器を編成に加えてシンフォニックな響きを深め、より色彩豊かなものにしてある。この曲もその一つで1925年の第2作目の作品であり、原曲はフルート・クラリネット・ファゴット・オーボエ・ホーンの5管編成になっている。

今回の演奏は赤城 淳が昭和48年に編曲したもので、フルート・クラリネットの2管に圧縮してあるが、ヴェルキも管なしでの演奏をあらかじめ予想して作曲していると言われております。

PPの神秘的な旋律で始まるこの曲は、やがてアレグロの躍動的な流れとなり、テンポ・強弱・音色の変化を巧みに操った短調の美しいメロディーは、21才の若いヴェルキの青春を謳歌しているかの様です。

A.G. ルビンシテイン (1829～1894)

天使の夢

〔編曲：武井守成〕

ロシアの巨匠ルビンシテインの作品10番「カメンヌイ オストロフ」の中の一。曲。「カメンヌイ オストロフ」とは「石の島」又は「岩の島」の意味で、帝政ロシアの首都ペテルブルグを流れるネヴァ河の中州の一つである。ここに作者のバトロンであったアンナ・パヴロワ大公妃の邸宅があり、この曲は大公妃の24人の女官の描写・又は作者が交った貴族社会の描写ともいわれるが、24のピアノ曲を作曲した。「天使の夢」は22番目の曲で恋人のアンナ・フリードボルクに捧げられている。編曲は昭和23年(1948)11月、死の1年前に武井守成が作り、彼の指揮によるOST(タケイ)の演奏が、毎夜NHKから「お休み番組」として放送の終りに流されたものである。晩年の編曲としては唯一の貴重なもので、ピアノを協奏曲風に使って原曲の味をより以上に引き出しているのは流石といえる。

冒頭マンドリン・ギターの3連音に乗って出てくるマンドラのメロディーは有名で、ゆったりとした美しい流れは夏の夕べのネヴァ河畔を想わせてくれる。

ムーアのグラナダ

M.M. ガルシア (?)

大幻想曲というサブタイトルを持つこの曲は、歴史的背景を知る事により、より興味を深めることが出来ると思います。

7世紀アラビア人(イスラム教)はアフリカのローマ領モリタニア(モロッコ)を征服し、その住民をモグリバー(西方の人)と呼んだ。モグリバーは次第にイスラム教に改宗し、又混血によりアラビア人化して勢力を増し、8世紀に入りイベリア半島(スペイン)を征服したが、半島の住民はモリタニアから来た人の意味でムーア人と呼んだ。ムーア人はその後15世紀まで700年の間、スペイン南部アンダルシア地方を中心に半島の地中海沿岸に勢力を振った。

一方アラゴン(半島・東北部)の王子フェルナンドとカスティリャ(半島の北部・中央部)の女王イサベラは1469年に結婚し、数年後スペイン王国(キリスト教国)が成立すると共に、国土回復運動が盛んとなり、ムーア人との戦争はスペイン王国側の優勢裡に進められた。

そしてフェルナンドとイサベラは、半島南部に勢力を持つ最後のイスラム教国グラナダを攻め、10年余りに亘る戦いの末1491年遂にこれを征服してスペイン国土回復は成り、ムーア人はアフリカへ追い落され再びスペインの地を踏むことはなかった。

(余談ですが；コロンブスの新大陸発見は1492年、イサベラ女王は彼のスポンサーとしても有名です。)

この曲は1924年12月にフランスのエストゥディアンティナから出版されたが、翌年の大正14年(1925)10月にOST(タケイ)第18回定演で演奏されている。おそらくこれが日本で初の初演であり、以下に当時のプログラムに載った武井守成の解説をそのまま転載します。(一部改訂・省略)

グラナダの最後の王ボアブディルは、祖先から継承した其の王国を見棄てねば成らなくなって、パテュール^{サンテン}山巔に立った。此の山上からは、長い間自分の君臨したグラナダも、又今自分を攻め逐ふて居るカスティラの王女イサベラ及アラゴンの王子フェルディナンド等が陣営たりしゼニールも、更に又今から自分の逃れ行くアフリカへつらなる海も見える。彼は思はず涙を落した。

而も此処彼処に回教徒の墓のしるべとなる^{シブレ}扁杉(糸杉)の森を眺めては、更に新たな悲しみを覚えるのであった。母なる^{ジュルタン}皇后エイザはボアブディルを此地まで送って来て云った。「男らしく此王国を護り得なかつた汝は、今こそ女の如く悲しめ」と。

かくて王と運命を共にするムーア人はアフリカに四散した。然しながら楽園グラナダは永久に彼等の記憶から去らず、乳房にすぎる嬰兒にも其母はグラナダの名を繰り返し教えたのである。

此幻想曲は十五世紀末の此悲劇を題材として、ガルシアの書いたものである。

冒頭十八小節の「前奏曲」は戦って敗れ、更に又起たんとして遂に起つ能はざりし悲惨な運命を暗示する。

そして直ちに「ボアブディル王の訣別」に入る此部分が、此曲の描写上の骨子となって居る事は云う迄もない。

次の「アラビア風小夜曲」は中音部に主旋律をもたせ、高音部を巧妙にあしらって、凡化すべきところに生命を与へたのが注意すべきである。

最後の「舞曲と終曲」はリズムとテンポの変化で此曲の終りを結ぶべく作者の努力の跡が窺われる。そして其終曲には「前奏曲」のすべてが再び繰返されるが、之は恐らく、ムーア人のグラナダ回顧及之を回復せんとする意気を示したものであらう。総じて此曲には其手法に於ても構想に於ても、格別取立てゝ云うべき新らしさを見出す事が出来ないに拘らず、細心の注意と美しい情操とを以て凡庸を凡庸として終らしめなかつた処に、作家の苦心と力とが認められる。

更に又東洋風旋律をしきりに逐ふ欧州作家の最近の嗜好を示す一例證としても興味あるものであらう。

【作家からヴァイオリニスト アムバロト・ペリスに贈られ昨年(1924)12月仏国で出版された。】

当時35才の武井氏の論評は堂々として自信に満ちており、旧文体と旧仮名使いも面白く興味深い。尚作者のガルシア(MATIAS MARQUEZ GARCIA)についての経歴など詳細は不明である。

加除式法規書・法令解説書出版

中央法規出版株式会社

本社 〒151 東京都渋谷区代々木2-27-4 電話(3379)3861(代表)
営業所 札幌・仙台・岐阜・大阪・広島・福岡

山本ミュージックコーナー

〒164 中野区東中野1-43-7 JR東中野駅東口南下車3分 TEL(3363)9893

取扱品目

- ★ 手工マンドリン・ギター各種
- ★ 各社マンドリン・ギター
- ★ マンドリン・ギター用弦及附属品

お気軽にお立ち寄り下さい。

マンドリン教室
平山英三郎先生

ギター教室
平山英三郎先生

指	揮：*石 黒 不二夫 *家 城 孝 治	コンサートマスター：*肥 沼 成 明 *本 間 輝 樹		
第一マンドリン：	肥 沼 成 明 本 間 輝 樹	新 居 裕 久 秋 元 興 光	幸 田 禎 治 田 島 明 子	桑 原 功 村 上 一 二 郎
第二マンドリン：	宮 崎 泰 行 *岡 田 茂	市 毛 利 喜 夫 玉 木 利 恵 子	村 上 貴 生 明 後 藤 俊 明	長 利 一 夫
マンドラ コントラルト：	*岩 片 順 子			
マンドラ テノール：	岩 片 順 子 田 中 倭 文 子	石 井 栄 一 渡 辺 清	藤 田 正 美 佐 藤 一 徳	
ギ タ ー：	*今 津 章 *山 本 雅 三	宮 本 紀 子 城 所 敏 雄	西 原 正 高 橋 悠 介	沢 田 高 久 沢 田 行 雄
マンドチェロ：	鈴 木 功	平 山 英 三 郎	*宮 本 皓 永	
マンドローネ：	高 田 三 九 三	家 城 孝 治		
コントラバス：	佐 藤 正	粕 谷 幸 久		
フル ー ト：	若 土 祥 子			
クラリネット：	佐 藤 道 世			
ピ ア ノ：	福 田 り さ			
打 楽 器：	松 原 竜 一			
箏	： 仲 田 喜 代 子			

〔* —— 役員〕

オーケストラ シンフォニカ 東京 (OST)

代表幹事 今 津 章

事務所：〒241 横浜市旭区中尾町82-1 ☎045-363-1046